

# 安全データシート

作成日 2011年 7月 8日  
改訂日 2014年 2月 26日

## 1. 製品及び会社情報

製品の名称

速モル A剤

会社名  
住所  
担当部門  
電話番号  
FAX番号  
緊急連絡電話番号  
推奨用途及び使用上の制限:  
整理番号 30031

アサヒボンド工業株式会社  
東京都板橋区大谷口北町3-7  
営業部  
03-3972-4929  
03-3972-4583  
営業部 03-3972-4929  
コンクリート欠損の補修に限る。

## 2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性  
健康に対する有害性

引火性液体	区分外
急性毒性(経口)	区分外
急性毒性(経皮)	区分外
急性毒性(吸入:粉じん、ミスト)	区分外
皮膚腐食性/刺激性	区分1
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分1
皮膚感作性	区分1A
特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	区分2(呼吸器系)
水生環境有害性・急性	区分3
水生環境有害性・慢性	区分3

環境に対する有害性

\* 上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

重篤な皮膚の薬傷  
重篤な眼の損傷  
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ  
呼吸器への障害のおそれ  
水生生物に有害  
長期的影響により水生生物に有害

注意書き

### 【安全対策】

取り扱い後はよく手を洗うこと。  
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。  
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。  
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。  
ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。  
屋外または換気のよい場所でのみ使用すること。  
環境への放出を避けること。

### 【応急措置】

- ・吸入した場合: 空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
直ちに医師に連絡すること。
- ・皮膚(または髪)に付着した場合: 直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと/取り除くこと。  
皮膚を流水/シャワーで洗うこと。多量の水と石鹸で洗うこと。皮膚刺激  
または発疹が生じた場合は、医師の診断/手当を受けること。  
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。
- ・眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて  
容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
直ちに医師に連絡すること。
- ・気分が悪いときは、医師の診断/手当を受けること。

## 【保管】

施錠して保管すること。

## 【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 化学品又は一般名 危険有害成分	混合物 常温反応型液状アクリル樹脂		
化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	CAS番号	官報公示整理番号
メタクリル酸エステル類	60～70%	非開示	非開示
シリカ	1.0～5.0%	68611-44-9	(1)-548 (化審法)
シリカ	1.0～5.0%	7631-86-9	(1)-548 (化審法)
1-メチル-1-フェニルエチル =ヒドロペルオキシド*	1.0～5.0%	80-15-9	(3)-1014(化審法)

## 4. 応急措置

吸入した場合	被災者を空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
皮膚に付着した場合	直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと／取り除くこと。皮膚を流水／シャワーで洗うこと。汚染した衣類を再使用する場合には洗濯すること。多量の水と石鹸で洗うこと。皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断／手当を受けること。
目に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。
飲み込んだ場合	気分が悪い時は、医師に連絡すること。口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
気分が悪い時は、医師に連絡すること。	
応急措置をする者の保護	救助者は保護手袋や保護眼鏡などの保護具を着用し、衣類や手につかないように注意を払うこと。

## 5. 火災時の措置

消火剤	泡消火剤、粉末消火剤、ハロゲン化物消火剤、乾燥砂。 大火災:粉末消火剤、二酸化炭素、耐アルコール性泡消火剤、散水
使ってはならない消火剤	水の使用は、火災を拡大し危険な場合がある。
火災時の特定の危険有害性	可燃性のものを周囲から取り除く。 加熱すると容器が爆発するおそれがある。
特有の消火方法	火元への燃焼源を断ち、消火剤を使用して消火する。 消火作業は風上から行う。
消火を行う者の保護	消火作業の際には有毒なガスを吸い込まないように呼吸用保護具及び保護眼鏡を着用する。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、	屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。 作業の際には必ず保護眼鏡や保護手袋等の保護具を着用し、風上より作業する。
環境に対する注意事項	河川等に排出され、環境中へ影響を起こさないように注意する。 回収物は、公的認可された産業廃棄物業者に委託し、廃棄する。
封じ込め及び浄化の方法・機材	衝撃、静電気にて火花が着火しない材質の用具を用いて回収する。 漏洩液はおがくず、ウエス、砂等に吸収させてから容器に回収する。
二次災害の防止策	付近の着火源となるものを速やかに取り除き、消火用機材を準備する。

## 7. 取り扱い及び保管上の注意

取り扱い	
技術的対策	目、皮膚、及び衣類に触れないように、8項に示した保護具を着用する。 漏れ、あふれ、飛散しないようにし、みだりに蒸気を発生させない。 火気厳禁。高温物、スパーク、火炎を避ける。 本製品の硬化物をディスクサンダー等で研磨した場合、研磨した粉末をあつめたまま(掃除機のフィルター、ゴミ袋等)処置すると自然発火するおそれがあります。 積もった研磨粉はできるだけほうき等では集めた上、廃棄するまで十分な水に浸けておき、早めに専門の廃棄物処理業者に処理を委託して下さい。
局所排気・全体換気 安全取扱い注意事項	全体換気装置、必要に応じて局所排気装置を設置する。 取り扱い後、手や顔をよく洗い、うがいをする事。 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。 屋外または換気のよい場所でのみ使用すること。 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。

接触回避	環境への放出を避けること。 アミン等の還元剤。
保管	
混触禁止物質	アミン等の還元剤など同一場所に置かない。
保管条件	変質(変形)を防止するため、直射日光、水漏れ、湿気、熱を避けて冷暗所(好ましくは20℃以下)で容器を密閉して保管する。
容器包装材料	火災を防止するため、火気、熱源、発火源から離れた場所で保管する。 容器を密閉して、30℃以下の風通しのよいところで施錠して保管すること。 ポリエチレンおよびポリプロピレン製容器。

## 8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度	設定されていない。
許容濃度(暴露限界値、生物学的指標)	
日本産衛学会(2009年版)	設定されていない。
ACGIH(2009年版)	設定されていない。
設備対策	局所排気等の設備を設置して作業者が暴露から避けられるようにする。
保護具	
呼吸器の保護具	有機ガス用防毒マスクやエアラインマスク等。
手の保護具	ポリエチレン製の保護手袋。 接着剤の成分が浸透しにくい、かぶれにくくなります。但し、手袋によっては、合わせ目が破れ易いものがあり、そこから接着剤に直接触れるおそれがありますので、着用にあたっては、合わせ目の破れの有無を確認した上で、ご使用下さい。 側板付き普通眼鏡型又はゴーグル型保護眼鏡。
目の保護具	長袖の作業衣。
皮膚及び身体の保護具	作業中は飲食、喫煙をしない。
衛生対策	作業終了時には、石鹸で手を洗う。

## 9. 物理的及び化学的性質

外観	淡黄色粘性液体
臭い	微かに特有芳香がある
pH	データなし
融点・凝固点	-60℃以下
沸点、初留点及び沸騰範囲	データなし
引火点	112℃
発火点	214℃
爆発範囲	データなし
蒸気圧	データなし
蒸気密度	データなし
比重	0.9~1.1(23/23℃)
溶解度	水に不溶
オクタノール/水分係数	データなし
分解温度	データなし

## 10. 安定性及び反応性

安定性	加熱、光の照射、混触危険物質との混合・接触により急激な化学反応が起こり、発熱を生じるおそれがある。
反応性	同上。
避けるべき条件	加熱、火気、直射日光、金属類・アミン類等の還元剤との混合・接触。
混触危険物質	金属類、アミン類等の還元剤。
危険有害な分解生成物	不完全燃焼により一酸化炭素を生成するおそれがある。

## 11. 有害性情報

急性毒性	経口	区分外 以下の区分の急性毒性(経口)の物質を含む。 区分4 1-メチル-1-フェニルエチル=ヒドロペルオキシド ラット LD <sub>50</sub> 382mg/kg 含有量をもとでの加算計算で、区分外となった。
	経皮	区分外 以下の区分の急性毒性(経皮)の物質を含む。 区分3 1-メチル-1-フェニルエチル=ヒドロペルオキシド ラット LD <sub>50</sub> 530mg/kg 含有量をもとでの加算計算で、区分外となった。
	吸入(ミスト)	区分外

以下の区分の急性毒性(ミスト)の物質を含む。

区分4 1-メチルー1-フェニルエチル=ヒドロペルオキシド

ラット LC<sub>50</sub> 4時間:1.4mg/L

含有量をもとでの加算計算で、区分外となった。

皮膚腐食性/刺激性

重篤な皮膚の葉傷・眼の損傷(区分1)

以下の区分の皮膚腐食性/刺激性の物質を含む。

区分1 1-メチルー1-フェニルエチル=ヒドロペルオキシド<sup>2),4)</sup>

区分2 メタクリル酸エステル類

含有量をもとでの加算計算で、区分1となった。

眼に対する重篤な損傷・刺激性

重篤な眼の損傷(区分1)

以下の区分の眼に対する重篤な損傷・刺激性の物質を含む。

区分1 1-メチルー1-フェニルエチル=ヒドロペルオキシド

区分2 メタクリル酸エステル類

含有量をもとでの加算計算で、区分1となった。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

呼吸器感作性:データなし

皮膚感作性:アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ(区分1A)

以下の区分の皮膚感作性の物質を含む。

区分1A メタクリル酸エステル類

含有量をもとでの加算計算で、皮膚感作性区分1Aとなった。

生殖細胞変異原性

データなし

発がん性

データなし

生殖毒性

データなし

特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)

呼吸器の障害のおそれ (区分2呼吸器系)

以下の区分の特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)の物質を含む。

区分2(呼吸器系) 1-メチルー1-フェニルエチル=ヒドロペルオキシド

区分3(気道刺激性) メタクリル酸エステル類

含有量をもとでの加算計算で、区分2(呼吸器系)となった。

特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露) データなし

吸引性呼吸器有害性

分類できない

## 12. 環境影響情報

水性環境急性有害性

水生生物に有害 (区分3)

以下の区分の水性環境急性有害性の物質を含む。

区分2 1-メチルー1-フェニルエチル=ヒドロペルオキシド

魚類(ニジマス) LC<sub>50</sub> 96時間:3.9mg/L

区分2の含有量が5%、10倍した値が25を超えるので区分3とした。

水性環境慢性有害性

長期的影響により水生生物に有害 (区分3)

残留性・分解性

1-メチルー1-フェニルエチル=ヒドロペルオキシド 難分解性:BOD分解度:0%

急性水生毒性が区分3であり、急速分解性でないので、区分3とした。

オゾン層への有害性

本製品はモントリオール議定書の付属書にリストアップされていないため、分類

できないとした。

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄する場合は、A剤とB材を混合させ速やかに十分な水に浸漬し廃棄するまで保管して下さい。

硬化時に発熱を伴いますので、次のものは廃棄するまで十分な水に浸けておき、早めに専門の廃棄物処理業者に処理を委託して下さい。

汚染容器及び包装

容器は、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

## 14. 輸送上の注意

国際規制

国際規制

国連分類

:該当せず

国連番号

:該当せず

品名

:該当せず

容器等級 : 該当せず  
国内規制 : 15項を参照のこと。  
輸送の特定の安全対策及び条件 : 運搬に際しては容器に漏れないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み荷崩れの防止を確実にを行う。

## 15. 適用法令

消防法	危険物第4類第3石油類(非水溶性)
労働安全衛生法	名称等を通知すべき有害物 (法第57条の2、施行令第18条の2別表第9) シリカ
毒物及び劇物取締法	該当しない。
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)	第1種指定化学物質 (法第2条第2項、施行令第1条別表第1) 1-メチルー1-フェニルエチル=ヒドロペルオキシド

## 16. その他の情報

### 参考文献

- |                   |                  |
|-------------------|------------------|
| 1)製品安全データシートの作成指針 | 日本化学工業協会         |
| 2)GHS分類結果データベース   | 独立行政法人製品評価技術基盤機構 |

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データにもとづいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保障をなすものではありません。また、注意事項は通常の取り扱いを対象としたものなので、特殊な取り扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。